



和漢朗詠集



和漢朗詠集上

春

立春 早春

春興

春夜

子附

三月三日

桃付

暮春

三月盡

潤三月 鶯

霞雨

梅

紅梅付

柳

花付

躑躅

欵冬

藤

夏

更衣 首夏 夏夜 端午 幼凉
晚夏 盧橘 蓮 郭公 螢 蟬

扇 秋

立秋 早秋 七夕 秋興 秋晚
秋夜 八月十五夜 月 九日 菊
九月盡 女郎花 秋 蘭 桂

前栽 紅葉 竹 鷹 竹 蠶 玉 麻
秋 扇 倚衣

冬 初冬 冬夜 歲暮 煇火 霜
雪 冰 竹 棗 霰 佛石

立春 立春 迎吹 潛開 不待 芳菲 乍 迎春 乍

將希白露之恩

池冰东頭風波解忘梅小面雪對寒

年法... (vertical column of cursive text)

去... (vertical column of cursive text)

柳... 氣力條先動池有波文冰盡解

今日不知誰計會春風春水一時來

夜向殘更寒聲盡春生香火曉煖燃

神... (vertical column of cursive text)

春... (vertical column of cursive text)

春... (vertical column of cursive text)

山... (vertical column of cursive text)

早春

冰消田地魚龍短春入枝條柳眼紅

先遣和風報消息續教帝馬玩未由

東岸西岸之柳 逢逢不同 南枝小枝
之梅 開落已異

寒塵懶蕨人 奉手碧玉寒 蕙帷脫露
氣霽風抗 新柳髮冰消 波洗舊苔 醫
庭增氣 又晴沙綠 林裏容輝 宿雪紅

思之くく 予の心 法上人より 心
まゝのまゝ ありぬる 心

ら 風よとら 氷志い かり
い けつる あら 吾の 心
見つる せく 柳 様と 心
都 些 吾の 心 未 了 守り
之 心 せく 心 法 了 恨 雪 けり
心 心 けり 心 守り 心
春興

吾れ之志んをわらう一梅志ん
ふして見らるる秀やわらう

子日

倚松樹の摩腰習風霜之雖孔和菜
羹の啖口期氣味之克潤
倚松根而摩腰千年之翠滿手折梅
花而擗頭二月之雪落衣

子のいさる節へは小松のありぬ
ふ代のうらうは何とひま
千年まては松のわらう
君のいさしてしるのせやゆ
子のひしてさけの節への非小松
いそや菜法けともさ

若菜

野中^ニ毛^モ菜^{サイ}世^セ事^ジ推^ス以^テ蕙^ヱ心^シ鑑^ミ下^ニ和^ハ葉^エ
俗^{ソク}人^ニ屬^ス以^テ萬^{マン}指^シ

何^{ナニ}と^トい^ハふ^{コト}は^ナら^ズに^シた^カら^ズに^シ
わ^ハく^テの^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ
の^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノう^ラひ^ノ

初^{ハツ}見^ミる^{コト}は^ナら^ズに^シた^カら^ズに^シ

三月三日 舞

^春春^{ハル}来^キ遍^ヒ是^レ桃^{トウ}花^カ水^{スイ}不^レ辯^ワ仙^{セン}源^{ゲン}何^レ處^ニ為^ス
第^ニ言^フ月^{ツキ}こ^トえ^ニ三^ニ朝^ニ天^ニ醉^リ干^シ花^{ハナ}桃^{トウ}李^リ
威^イ也^{ナリ}我^ガ君^ノ一^ニ日^ニ之^レ澤^ニ万^ニ機^ニ餘^リ曲^ク水^{スイ}
唯^タ遙^ト遺^ヒ塵^チ唯^タ絶^ト書^キ巴^ハ字^ジ而^{シテ}知^ル地^チ塙^{ハク}思^フ
魏^ヱ文^{ブン}以^テ翫^シ風^{フウ}流^{リウ}盖^{シテ}志^シ之^レ所^ニ之^レ謹^ク獻^ス

煙靄遠近應同戶
桃李淺深似勸盃
水成巴字初三日
源起周年後幾時
礙石逢來心竊約
牽縲過半先遮
夜雨偷濕曾波之眼
新嬌曉風緩吹
不言眉先咲

夕らし霞ささりて
人桃李浅深似勸盃
花ささりてささりて
夕らし霞ささりて

暮春

拂水柳花千
百點障樓
鶯舌雨三聲
任翅沙鷗潮
落曉亂絲
蹄馬草深春
人更少時
須惜耳不常
春酒莫空
劉白若知今日
好應言此處
不言何

夕らし霞ささりて
人桃李浅深似勸盃
花ささりてささりて
夕らし霞ささりて

いふやうに春の色をうらやましく
くみくみけむるのうらやま

三月盡

留春不住春歸人寐冥歎風不
定風起花銷索

竹院君閑消永日華亭我醉送殘春
惆悵春歸面不得紫藤花下漸黃昏

送春不用動舟車唯別殘鶯与落花
若使船先知我意今宵擾宿在詩家
春不用開城固花落隨風鳥入雲

うらのまをまはやくねのけり

ゆめをよそよそとねのけり

花をみるらりりねのけり

春の色をうらやましくみくみく

まへもえん河をちりてそのまへ
のまへもえん河をちりてそのまへ

閏三月

今年閏在春三月刻見金陵一月花
歸點歌鸞更返返於孤雲之路
蜂林
寒蜂速翩翩於一月花
花梅歸根益梅鳥期入谷定延期

らるるむまらるる
くまらるるあはるる

鸞

鸞既鳴忠臣待旦鸞未出遺賢在
誰家碧樹鸞鳴而落幕猶寓幾處花
堂夢覺而珠簾未卷
咽霧山鸞啼尚少穿砂蘆葉繞合

臺頭有酒鸞呼客水面無塵風洗池
鸞聲誘引來花下草色拘留坐水邊
感同類於相求離鴻玄鷹之應春轉
會異氣而終混龍吟莫躍之伴曉啼
燕姬之袖暫收猜繚亂於蕉柏周郎
之簪頻初顧間開於新花
新路如今穿宿雪舊巢為後屬春雲

西樓月落花間曲中殿燈殘竹裏音

河玉人年ぬららるあけく

まゝゆらひそのあ

物きりきりまゆらひそのあ

らひのまゆらひそのあ

らひのまゆらひそのあ

らひのまゆらひそのあ

霞

霞光曙後殿於火草色晴來懶似煙
鑽沙草只三分許跨樹處繞半段餘

川りくそ年々くわわくす

ひすのらくくわわくくす

去飛ゆてくわい波く三り節の

りのらく雪々くく

わくくくくくくくくく

善くくくくくくくくく

雨

或密花下潜増墨子く悲時寐髪間
暗初清即く思

長樂鐘聲花外盡龍池柳色雨中深
養得自為花父母洗來寧辨菜君臣

花新開日初陽潤鳥老歸時薄暮陰
斜脚暖風先扇處暗聲初日未晴程

わろしきむのうろくはなとらふ
あやかしきむのうろくはなとらふ

あやかしきむのうろくはなとらふ

あやかしきむのうろくはなとらふ

梅紅梅

白粉落梅浮澗水黃梢新柳出城墻
梅花帶雪飛琴上柳父和煙入酒中
河薰臘雪新封裏偷縷春風未扇先
青絲綵出陶門柳白玉裝成東嶺梅
五嶺蒼蒼雲往來但憐大庾百株枿
誰言春色從東到露暖荀枝花始開
淡々さこしとせんとすひ梅のうろ

うねるく見らす雪法らまてく
秀色とていさしやまこく梅の心
わやけいすもくらあうう
梅法花らむもくもいさく
わ梅より雪のうねるうさく
紅梅

梅含鶏舌煎紅氣江弄瓊花帶碧支

浅紅舞始仙方之雪媿色濃香芬郁
妓鑑之煙讓薰

有色易分殘雪底無情難辨又陽中
仙的風生空鼓雪節爐火暖未楊煙

あめてけいさしやまこく梅の心
あめてけいさしやまこく梅の心
あめてけいさしやまこく梅の心

沈吟のねせりしうへてをみる

柳

林鴛何處吟第枉橋柳誰家曠麴塵
漸欲拂他騎馬客未多遮得上樓人
至女廟花紅似粉昭君村柳翠於眉
減知老去風情少見此年江一勾待
大庾嶺之梅早落誰問粉粧這廬山

之杏未開豈趁紅艷

雲翠紅鏡杖棠日春嬌黃珠懶柳風
鴛宅近晴庭月暗陰池逐日水煙深
潭心月泛交枝在岸口風來混葉嶺

春柳のしりとりをみる

さしゆびとふかしのしりとり

春のしりとり柳のゆいこと

月、つりつり、けり、けり、
春柳、ほろり、ほろり、糸きり
けり、けり、けり、けり、

花 付花

花明上苑輕軒馳九陌之塵接叫空
山斜月莖千巖之路
池多溶溶藍染水花光焰火燒春

遙見人家花使入不歸去賦与秋
基日莖風子任千巖万巖玉染枝
深浪表裏一入再入紅
誰謂水心法艷臨号波變色誰謂
花不语輕深激号影初厚
欲謂水川漢女施粉鏡清芙蓉
謂花亦蜀人濯父綿柔爛

裁自何線，信暮雨裁，紅是橋，住春風。
花飛如錦，香洗粧，織者春風，東罽，錦。
始織春風，梳上巧，非唯織，色織，芬芳。
眼貪蜀郡，裁殘錦，日供秦，吹調畫，筆。
世の中、さうさう、ゆるゆるの、ゆるゆる、
善のゆるゆる、わのゆるゆる、
我、心、の、花、は、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、

ら、ら、ら、の、ら、せ、こ、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
え、の、の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

あ、ま

落花不語，空辞樹，流水心自入，池。
物、踏、落花、相、伴、お、言、ひ、花、鳥、一、時、還、
春、花、面、に、闖、入、酣、暢、と、暹、曉、芳、輝、と、

隈 黍 薄 御 座

落 花 狼 藉 風 狂 後 啼 鳥 龍 鐘 雨 打 時

離 閣 風 飈 鳴 檻 舞 下 接 姪 袖 顧 階 翻

櫻 ち り 木 ち 風 ち 心 じ ー ー

ま ー ー ち ぎ り 雪 ち ち ち ち

こ 介 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

こ 法 長 ち ち ち ち ち ち ち ち

躑躅

晚 燕 尚 用 紅 躑 躅 秋 房 始 結 白 芙 蓉

衣 卷 人 欲 看 本 事 寒 食 家 應 打 得 驚

思 心 切 り ち ち ち 法 止 の 若 け し

い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

歎 冬

點 着 唯 黃 天 有 玄 歎 冬 誤 綻 暮 春 風

書窓有卷相叔拾詔紙與文未奉行

かゝるさくさくさくひ川に歌をて

こ海さくら花さくら花さくら川

りんとはいさよさふさこの枝

りりりりりりりりりりりりりりり

藤

懐望慈恩三月盡紫菀花落為開

紫藤露盡殘花色翠竹煙中暮鳥聲
紫茸偏棄朱衣色應色花无忘思臺

田子の浦さくさくさくさくさくさく

かゝるさくさくさくさくさくさく

さくらさくらさくらさくらさくらさくら

かゝるさくさくさくさくさくさく

夏

更衣

肖壁燈殘經宿焰用箱衣帶隔羊香
丰衣欲待家人天著病醲當招邑老

びんろうよとぐーくろのりよのり
なふに記すよしめりん

首夏

甕頭竹葉經春發階庭蓋菠入夏用

苔生石面經衣短荷出池心小蓋疎

我、危、い、つ、は、れ、や、ま、る、る、を、い、え
夏、あ、り、う、の、や、え、い、の、あ、は、ら、む

夏夜

風吹枯木晴天雨月照手砂夏夜長
風生竹火念間卧月照松時臺上
空火念閑菴度後深更斬白月明初

夏の長を祿なりあやねいね
くらめゆやあひさうりさし
いささやうらやあ月のうら
りしーあひさうりさし
まへえまうらうらうら
うらうらうらうらうら

端午

有時^ナ有^ナ戸^ニ危^ナ立^ル女^ト言^フ故^ニ園^ニ任^ス脚^ヲ
つこまこまうらうらうら
はひとくうらうらうら
あひさうらあひさうら
うらうらうらうらうら

納涼

青苔地上消殘雨緑樹陰前
逐^ル晚^ノ涼

夏風の扇林のそよ風
いしほのそよ風
秋のそよ風
冬風のそよ風

盧橘

魚橋子佐山雨重
拚桐葉戰水風涼
枝繫金鈴春雨後
花萎紫麝飄風裡

六月七月花をうららぬの香とみけ
しーのんまをたれ香をすま
ゆらゆらめらるるの香はとみけ
あつたじーはるるの香

蓮

風荷老葉蕭條
綠水藜殘花寂寞
紅葉展新翫
白初月花用香散入
廣風

煙開翠扇清風曉水泛紅衣白落秋
岸竹枝低燕鳥宿潭荷葉動是莫遊
緣何更覓吳山曲便是吾君座下花
煙為眼目佛為眼知汝花中須善根
くらしと柴のいりしよふねへりて
まはらふ病いしゆらあさじく
那云

一祥山鳥曙雲外万點水螢秋草中
去歲今年不變何郭公曉枕駐拜過
夕月危きかたつみこいしゆらあさじく
くらしと柴のいりしよふねへりて
まはらふ病いしゆらあさじく
海一とれまきまきり
こたふしゆらあさじく

人ゆへに...
あはれ...
あはれ...
あはれ...

菫

菫火乱花秋已近
辰星没之初长
蕙葭水暗萤知夜
杨柳风高鹰送秋
明...仍在...
消豈积雪竹於床頭
山經卷裏疑過岫
海賦篇中似宿流

あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...
あはれ...

蝉

暹...
号秋風山蝉号
号春日玉枕暖号
温泉溢榻上
号树红

千峯鳥路合梅雨五月蟬聲送麦秋
鳥下録在秦苑静蝉鸣黄葉漢宮秋
今年異例腸先折不乞蟬悲容忘悲
歲去米生聽不憂莫言秋後逐為空

夏心浩气の木下清人そくろくし
夏心浩气の木下清人そくろくし
夏心浩气の木下清人そくろくし
夏心浩气の木下清人そくろくし

夏心浩气の木下清人そくろくし

扇

盛夏不消暑終年全盡風引秋生平
裏歲月入懐中

不灼之漏物今後唯翫秋風未至前
云の川のほとりすしき七夕志
うつさへもあまのさき

あまのこゝろの秋の風を
ふいねらるる

秋

立秋

蕭颯涼風と表鬢誰教討會一時秋
鷄漸散間秋色少寤帝趨屢晚輝微
秋事ねて目いさぐさ見ゆる

風はるる中らるる

いせやうゆめあまの秋

秋のうらやま

早秋

但存暑随三伏去不知秋送二毛来
槐花雨潤新秋地桐葉風涼欲夜天
炎景剗殘夜尚重晚涼潛到簞先知

杯をもちてつくしめし神の祈り
あけの風をけりてすし

七夕

憶得少年長乞巧竹竿頭と
二星遙逢未鈕別緒依之恨
将明步驚涼風颯々
秀在別淚珠空落雲乞殘
樞路未成

去衣曳浪霞熱濕灯燭浸流月欲消
洞花激波雅且道心初行月欲為媒
風從昨夜解跡恨露及明朝淚不禁
あけの川はさぬあけの涙も
あけの川はさぬあけの涙も
あけの川はさぬあけの涙も
あけの川はさぬあけの涙も

年一ふのふとすきと七夕法
わのくつとすきとすきとすきと

秋興

林間煖酒燒紅葉石上臥待掃綠苔
楚思淅花雲水冷高輝清脫管絃秋
大庾四時心惣苦就中腸却乞秋天
物色自堪傷客意直將愁字作秋心

由朱減思在秋天多被雨時萬物奉
才一傷心何處完竹風鳴葉月明前
蜀茶尚忘浮花未楚練彩竹梧雪夢
いつさくいられ此色の秋葉と
りよん〜とんつる字よ〜れ
物々々〜とま〜れを〜る〜縁
中〜い〜ら〜る〜れ法下〜る

秋晚

秋思又上松臺立
蚤思蟬於滿月秋
守心出月影
新秋初
飛泉
信教
少翁心少
の世を
たらし
す
か
の
ふ
え
つ
る
杯
の
中
へ
い

秋夜

秋水長
こ
け
と
眠
天
不
明
秋
の
残
燈

宵
儀
新
蕭
こ
暗
雨
打
窓
敷

逢
こ
睡
漏
初
七
之
秋
こ
星
河
欲
曙
天

夢
子
樓
中
夜
月
大
秋
朱
只
為
一
人
長

夢
草
涼
深
人
定
後
終
宵
を
過
月
の
前

魚
夜
洲
裏
孤
舟
夢
榆
柳
螢
頭
百
里
へ

あ
の
川
の
山
の
は
ら
は
と
れ
と
り
と
を

ま
り
く
し
き
り
は
り
し
り
と
も
あ
ら
し

しつゝもまじらつゝふらふらふらふら
いつゝもめきいんあーさふらふら

八月十日之夜

秦旬之一子餘里栗氷鋪漢家
三十六宮重之粉飾
織錦機中已解扣思之字榜衣礎上
俄添惡別之教

三之尺中新月笑二子里介故人心
嵩山表裏子重雪洛水高位友顆珠
十二廻中之勝於此又之好子万室
介時年於吾家先

碧浪金波三之初林風中之似之鹿
自疑荷葉之我早人道簾花之面飾
岸白還速之松上之鴈潭之豔可之并藻中之莫

てしきしちねらりつりさうり
まじく見しゆめきの水去月
ふよりしちゆしりさうり
月りきしひあらしはらし

九月九日

鸞和社日 穉巢去菊乃重陽 胃雨用
採取幸於侯武則赤萸採宮人衣

為舊跡於魏文 忽黃花助欵袒
先三逢号 吹之也 必曉星 特河漢
列十系号 為之秋穀林 雪迴洛川
首水洗花 汲下流 而得と秀者 三十
餘家地 味和味 冷日精 白冠耳 歌者
五百箇年

冷クク

心と法菊のちさうり

後以情密の因非面蕭瑟於雲巖維
令孟賁而追何迹變精於凡境
須自飛隨禪者乞以秋施与太慈維
文華東遷白駒京洞海驪舟紅葉秋
心ひ朽くふねわはけりくも
まはの葉のしとぎる物我
ふれてゆく林の影はよまのり

りしゆいれりせりの

女節衣

む、又如羞栗俗呼の女節守者感欲
契傍老恐思衰翁首似霜

ねらふゆりゆりゆりゆり
うらやうらやうらやうらやうら
よきうらやうらやうらやうら

いさしししの秋をこめしき

萩

曉露靡吟花始發百般拳打一時情

秋深此處秋意正のこもる風を
神のわらわらけりてな中よ
ららんとよふけりて秋を
おのろりよとけりて

秋の神よふら此のけりて
ちのち存ありて

蘭

前頭更有蕭條物
花菊衰蘭三五葉
杖葉豈無秋平浮雲掩
白下昏藜藜
豈不芳平秋風吹
白之敗
類如漢女願
施粉滴似
鏡人眼
泣珠

果思者此也紅日正色西昏翳白時
曾此種無思元高力是也時供世每
りしとのおもふりしとちりし
りしとちりしとちりし
りしとちりしとちりし

紅葉

不堪紅葉青苔地又乞涼風言句天
黃瀕瀕林寒有紫碧瑠璃水淨江塵
洞中清淺瑠璃水在上蕭條錦繡林
外物獨醒紅潤色餘波合力錦江群
白赤い河舟いすくもるら
下葉のいすくもるら
ししししししししししし

水月何處とありていふもいふも

いふもいふもいふもいふもいふも

いふもいふもいふもいふもいふも

いふもいふもいふもいふもいふも

鷹行の房

百里人南去三雲房水気不知何處

月深与汝同歸

為陽以又物添滿歡喜林聲房引朱

四之架山梳雨也東三行房恐電聲

店より飛避来抱疑於上法は月也奔

景易速於成後於下流は水急

房光碧房書去紙筆擊動林破錦操

雲衣花朱霸伴贈風樽滿眼湘上舟

環玉紫筆斜立柱青苔久紙叔の書

秋也く初るるのそよよの
くくくくくくくくくくくく

改唐

心腰改唐斜牽帯水面新物未展中
善くすくくくくくくくくくく
じくくくくくくくくくく

出

切く暗念下腰深草裏林天思婦
心白欠愁人目

我手欲拈出思苦風枝未定馬栖誰
床極短脚菴聲鬧壁狀空心鼠死牢
山籠雨時吟自暗野亭風秋織羽寒
藜邊怨遠風寸暗壁底吟幽月色寒

い海ら心くくくくくくくくくくくく

あしひひのうらやまのま
うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま

床

蒼苔^{アヲ}沓僧^{ソウ}地^チ寺^ジ紅葉^{カキ}妙^{マウ}乾^{カン}床^{シヤ}在^シ林^{リン}
晴^{ハレ}を^ヲ食^ク革^{カク}乃^ノ又^{マタ}憂^ウ更^セ地^チ加^カ乎^カ沌^{チン}風^{フウ}珠^{シュ}
むくらせねんじんじんじんじん

そのこみいんや社と新し
山よりくよとく法らうきき
よのしらくや枯かまねし

露

可^シ憐^レ九^ノ月^{ツキ}初^メ三^ツ夜^ノ露^ノ似^シ志^シ珠^ツ月^{ツキ}似^シ与^ト
露^ノ滴^ツ菊^{キク}葉^ハ美^シ玉^ツ白^ク風^{フウ}衝^ツ松^{マツ}葉^ハ雅^ヤ翠^{スイ}清^{セイ}
とととこれおそつとの枯らぬし

玉也のりまのまゆとてうらやま

霧

竹露曉霧微風晚送過紅春

雅志不務埋人松松愛朝雲也馬鞍

川よりゆきとてこころをわらわと

まよひて松のしらをみる

泳のくさるるにあらん松より法

とてのらるるをみる

栲衣

八月九月正長夜千初万群心時

小斗星示横振序南樓月下栲衣

栲衣晚愁困月冷裁得松秀塞雲寒

風庭秀死雙袖奉月示杵愁面眉停

年列思驚松鷹欠こ幽群列曉鶴

川也さしりりさく川

歳言

寒流号月澄水鏡又吹氷我村似可
風電易向人前言歳月冠後老底還

りさしりりさく川
乃のけさしりりさく川

煙火

黄醅深酌还冬筭律惟紅梅迹之閑
者無野馬聽江号臘裏風光被火迹
此大應濟石村元對米終長有去情
多時縱醉鷺也下近日那誰默炭邊

らさく川

りさく川

表

三秋洋雪花初白
一夜林表葉魚紅
万物秋衰枯槁色
當時冬日氣凋平
園寒夢雪或添孤
婦砧上山深感
袖先侵已皓鬢邊

君子夜涼香不致
老翁平晚饋如琴
祥已封苑亭鶴步
初驚葛腹人
晨積瓦海琴變色
大寒也表鶴吞祥

あやともしみはさそく
らぬいりてそよよと

雪

曉入梁王苑
雪滿羣山夜
七更云

梅月明千里

緑河砂漲三千界
梅花不用一
百枝
香似粉毛飛
散礼人枝
驚斃立徘徊

或逐風不返如振郡鶴之毛
羽之面
羽似深那棹浦鶴心在案興棹舟人
立於庭上臥如鶴座在極處手不飛
羽女園中秋扇色楚王臺上夜琴瑟
影
のらーうわさわ
の

ミーのらうあはら
のらうあはら
のらうあはら
のらうあはら
のらうあはら

氷 舟
氷對水面寸々浪雷點林頭見有花
表姑鶴渡寒江流氷結孤嶺詩有冰

あつる月のひかりを色く
けりしあはれなる雪の

春氷

氷消見水多於地
雪霽望山盡入樓
市河漢之愈疑
霜雪並渠王不
石叔
胡寒誰能全佳
萬年地還恐失
臣志
山川の今

春のあつる雪の

寂

摩牙未歎聲
腕影顔珠投顆
と冥
深らるるあはれ
さるるあはれ
まゝの本心

佛后

考火一極地一蓋
白歌水礼仏后

和漢朗詠集卷上

考自^カ存^リ心^シ之^レ用^ル火^ヲ也^ハ用^ル命^ヲ常^ニ不^レ因^ル其^レ
 わ^カ千^ニま^のの^うー^そら^らわ^らは^らる^まじ^き也^ハ
 沖^のこ^らす^るや^わえ^ん
 乎^のあ^らま^よつ^のあ^らま^じ月^と
 と^らし^とふ^くあ^らま^じ

十三代 元和^{元和}、利^利室^室 衛^衛門^門 宋^宋年^年録^録村^村長^長保^保万^万高^高長^長男^男 元文^{元文}二^二十三^{十三} (五^五五)

十四代 市^市良^良、義^義人^人 市^市良^良、十^十七^七五^五門^門 (五^五八^八、義^義、昭^昭、善^善子^子) 宝^宝曆^曆六^六、四^四、廿^廿六^六 (五^五十)

十五代 依^依在^在門^門、義^義直^直、 目^目黒^黒、重^重右^右五^五門^門 (十^十三^三代^代、長^長男^男) 明^明和^和三^三、九^九、廿^廿四^四 (五^五十)

十六代 重^重大^大郎^郎、義^義政^政、 目^目黒^黒、重^重右^右五^五門^門 文^文化^化元^元六^六、廿^廿三^三 (五^五十)

十七代 和^和師^師、幸^幸照^照、 目^目黒^黒、重^重右^右五^五門^門 (十^十三^三代^代、長^長男^男) 天^天保^保十^十三^三、四^四、廿^廿四^四 (五^五十)

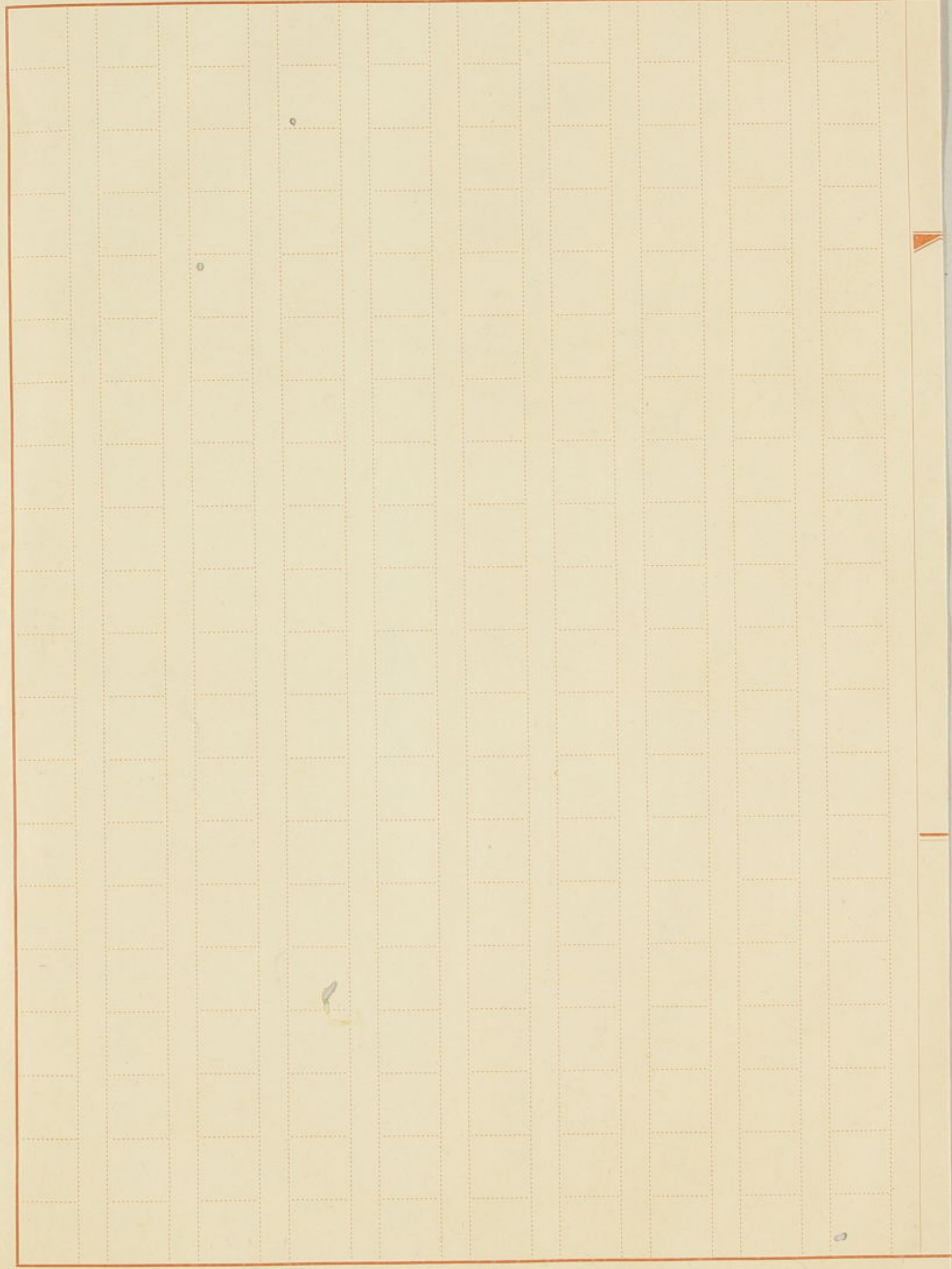
世書と昔祖又重魚の筆多十套の白紙代と

人

文始十二

百十

一風



コケ

